

～ 2023年1月からの再スタートに向けて、準備が進んでいます ～
「あなたの暮らす街の地域食堂を応援してください！」



ボランティア募集の呼びかけに応えてくれたボランティアは37名！
こんなにも多くの地域の方が地域食堂を応援してくれることに驚くとともに必要とされている時が来ているとも感じています。

■2022年4月、
コロナ禍の行動規制でやむなく休止

安心システムいなければ 2018 年から「孤食（個食）をなくしたい」という思いで、赤ちゃんからお年寄りまでみんなが集える地域の居場所、**地域食堂みんなのテーブル**を開催してきました。月に1度のおいしい食事と会話を楽しみに、地域の大人・子どもが集まりました。参加者もボランティアもスタッフも互いに頼り頼られ、心温まるシーンが随所に見られ、そろそろ地域のリーダーが出てきそうな矢先にコロナに見舞われ、2022年4月から休止になりました。

■2022年10月、応援者を募集開始！

運営メンバーと再開に向け話し合いを重ね、1月の再スタートに向けて、「あなたの暮らす街の地域食堂を応援してください」の一文をのせたボランティア募集チラシを作り、広く地域によびかけました。
11/10、21に開催されたボランティア説明会には24名が集まり、その後も希望者は増え続け、現時点で37名になりました。

2023年1月からの開催予定

- 【日 時】毎月第2金曜日 5時～6時半
- 【会 場】いなげピレッジ地域活動スペース虹
- 【要予約】Tel 043-290-8017 (北田)

■2022年12月、再開に向けて準備会をスタート！



1月地域食堂再開はボランティアが力を合わせて開催できるように、12月に準備会を開催し、衛生管理や調理手順のレクチャーを受けました(上写真)。そしてキッチンの清掃を参加者全員で行いました。もうボランティアにとっても、「私のキッチン、私の地域食堂」です。(下写真)



どんな新しい出会いと体験が待っているか、安心いなければ地域の応援したい気持ちをつなげてボランティアの仲間と1月地域食堂を開催していきます。

人と人とのつながりやネットワークで、リサイクルの輪は今でもきちんと回っている！

11月23日、柏田中にある「せっけん工場」を訪ねた。あいにくの天気だったが生協の職員や工場を運営する懐かしい面々に会うことができた。施設は老朽化しているが、1万人もの地域の人たちが出資して誕生した工場も、廃食油のリサイクル運動も、意志ある人たちの力でちゃんと回っていた。長い運動だが、共生型の地域づくりの模範でもあると改めて感じた。

そして数年前に工場内に誕生した地域交流スペース「うてな」を拠点に、工場の存在と運動が、体験や学びを通して地域に広がっていくといいなと思った。(ついつい便利な生活を選んでしまっている自分の反省も込めて)個人ができるSDG'sの簡単な取り組みとして、家の中の洗剤をまずは一つ、せっけんに切り替えませんか？ (推進員C子)



ともに学び、ともに社会をつくる ～安心コーディネーター研修開催報告～

《テーマ》

「安心コーディネーターの役割」と「地域共生社会」

2022年10～12月、3回に渡り、安心システム・街の縁側推進室主催「安心コーディネーター(以下CO)研修」をオンライン開催。安心COや地域COをはじめ生活クラブ千葉グループ団体より、のべ80名を超える大勢の参加となりました。

3回目(12/12)
講師を招き講座を開催！



『みんなを主役にする

ソーシャルファシリテーション』

【講師】NPO日本ファシリテーション協会フェロー
鈴木まり子さん

グループワークを中心とした体験型での実施

「ソーシャルファシリテーションを講義と体験を通して学び、地域づくりでさっそくやってみよう！」をゴールに設定。3回のグループワーク、その合間に講義を挟みながら進められました。グループワークは、短い時間でありながらたくさんの会話が飛び交う楽しい雰囲気の中、主体性や協調性を高める場となりました。講義は、より実践に即しており、「やってみよう！」と思わせる内容。主要ポイントを紹介します。

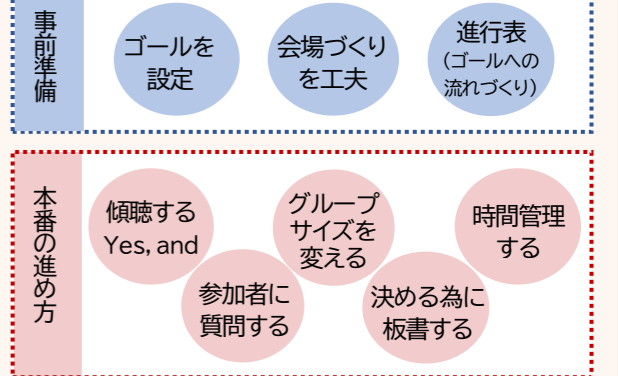
■ ソーシャルファシリテーションとは…

人と人との「つながり」や「かかわり」を育むための手法

- ① 〈話し合い〉のファシリテーションが基本！
- ② プラスαも考える…オーガナイザーやコーディネーターなどの役割も同時に担う

■ 「話し合い」のファシリテーションのマインドとスキル

話し合いとは対話や討議、ファシリテーションとは促進することや(何かを)容易にすること。話し合いの場では「主役は参加者」が大前提、自分たちで決めお互いに変化し合うことで参加者の「当事者意識」が非常に高まる。



まずは実践！今回「体験から」「お互いから」「楽しんで」学んだことを「自分の現場にどう活かすか」考え、実践あるのみです！

1回目(10/13)
『安心COとは、その目的と役割』を考える

① 風の村顧問 池田さん

安心支援システムと安心ケアシステムの連動が大きな課題

経済的・社会的格差が広がり、少子高齢化の影響で家族や地域社会のつながりが希薄化している今、求められているのは、誰もが役割を持てる「地域共生社会」を目指し、人と人、人と社会がつながり支え合いやすい環境を整えるアプローチ。地域住民全体の安心安全を限りなく支え合うための安心システムでの「安心COの役割」について共に考える場となった。「安心支援システムと安心ケアシステムの連動が大きな課題となる」と池田さんは言う。

② 推進室 新保さん

地域をつなぐ安心COの目的と役割を知る！

生活支援CO(地域社会)、地域CO(街ねっと)、そして安心COの目的や役割を共有し、支え合う仲間づくりや住民主体の地域づくりを皆で考える機会となった。

2回目(11/2)

『安心COの活動の中身を知り、学ぶ』

① 安心柏CO 竹中さん

地域の方が主体的に活動できる環境を整えていく

官民協力の「支え合い」の取組みに深く関わりながら、ふるさと協議会、社協、町会、地域のたすけあい団体と協力してきた竹中さん。今後も地域主体の活動のために環境を整えていくと話す。

② 安心八街CO 富永さん

フットワークを軽く、出会いを大切に！

「コーディネートの極意」を披露。フットワークを軽くし出会いを大切に、近すぎない距離だからこそ相談できる関係づくりなど、場面や相手に合わせた工夫が満載！孤立した親子への声掛けから安心の気持ちが生まれた子育てサロンほか事例も紹介。

③ ワーカーズコレクティブういず理事長 北田さん

活動の主体はボランティア、私たち(ういず)はサポート役

あくまでもボランティアを主体とし、サポートに徹する姿を通して、地域とつながり活動を生み出す秘訣を具体的に紹介。

安心システムも街の縁側も、
「地域共生社会の実現」という共通の目的を持っています。
ひとつひとつの縁側が、
違う特徴を持ちながら緩やかに広がっています。



佐倉市における新たな居場所と
働く場をつくりたい

C's コミュニティ

【NPO法人 C's コミュニティ】
C's kitchen ・ C's factory
■所在地 佐倉市上志津1557-18 小柳ビル1階1
■電話 043-290-9590
C's cafe
■所在地 志津駅徒歩北口3分志津市民プラザ1F
■OPEN 月～金曜日 10:00～17:00

■“4つの「C」”の実現のための、3つの部門の取り組み

特定非営利活動法人 C's コミュニティは、2021年8月に法人格を取得し、障害者就労継続支援B型事業の指定事業者の申請、2021年10月から事業をスタートしました。C's cafe・C's kitchen・C's factoryの3部門で障害者就労継続支援B型事業に取り組んでいます。C's cafeは認定NPO法人コミュニティケア街ねつが2015年11月から運営してきた志津市民プラザ1階にある地域交流喫茶、その運営を理念や方針も含めて引き継ぎました。三部門ともにC'sの名前の由来である「4つのC」が実感できる地域の居場所をめざしています。高齢化率の高い志津では、C's cafeが常連客たちの見守り機能も果たしています。

「4つのC」とは…

- Cozy(心地よい、和気あいあいとした)
- Comfortable(心やすまる)
- Care(心づかい、ケア)
- Communication(交流、コミュニケーション)



◀だれもが入りやすい開放的な店内



▲パン耳ラスクの袋詰め作業

■「地域の居場所」と「社会的居場所」

開業から満一年がたった C's kitchen & C's factory は、利用者にとって

- 「自分の存在を感じられる」
- 「自分自身が受け入れられていると思える」
- 「自分が求められていると実感できる」

場所となり、加えて「弱みを見せられる」場所である社会的居場所が実現しつつあります。

C's cafe の高齢の常連客と障がいを持つ利用者が接点を持つ場面を目にするたびに、豊かな地域社会になる予感がします。これからも C's コミュニティは、「地域の居場所」や「社会的居場所」という自覚をもって活動していくことで、地域に貢献していきたいと考えています。



▼店頭にて

緩やかに、和気あいあいと

風車

【NPO 法人ワーカーズコレクティブ風車】
■所在地 佐倉市稲荷台2-14-3
■電話 Tel 043-309-8667
■OPEN 月～金曜日 10:00～15:30
第1.3土曜日 12:00～14:00(みんなの食堂風車)

■リユース食器レンタル事業と居場所事業の両輪で…

ワーカーズコレクティブ風車は地域活動支援センターとして、地域の居場所事業とリユース食器レンタル事業を行っています。不登校・ひきこもりの親の会を中心に2008年ワーカーズコレクティブとして立ち上げ、2011年にNPO法人を取得。メンバーは、生きづらさを抱えた人・ハンディのある人、その親と地域の人たちです。多様な生き方を認め合い、病気や障がいがあっても安心してその人らしく生きられる社会を目指し、人権についての講演会を開催するなど、社会への発信も続けています。

■働く場として、そして様々なイベントを通して相談の場としての役割を果たす…

リユース食器レンタルでは、洗い・検品・出荷作業など、その人に合わせた働く場を。居場所事業では、創作活動・歌声サロン・卓球・散歩・DVD鑑賞のほか、オープンダイアログ、アンガーマネジメント、認知行動療法などの会を定期的に関き、働くことや生き方を模索したり、悩みや困りごとの相談の場にもなっています。



▲歌声カフェに地域の方も参加して

■オープンな企画で地域交流も始まる

2021年6月から「みんなの食堂風車」を開始し、「ゼロ円ショップ」や「朝採り地場野菜の販売」も同時開催すると、多くの方が立ち寄ってくれるようになり、地域交流も進みました。生きづらい社会だからこそ、誰もが平等に尊重され、ホッとできる居場所でありたい。これからも地域と連携しながら活動していきます。



▲みんなの食堂風車とゼロ円ショップで地域交流が始まりました。

デポー木刈

【デポー木刈】
■所在地 印西市木刈4-2-2
生活クラブデポー木刈内コミュニティスペース
■電話 0476-40-6811
■OPEN 月～土曜日 10:00～18:00
(店休日はデポー木刈カレンダーでご確認ください)

みなさんの思いを形にできる
居場所づくり

■2019年12月、デポー木刈リニューアルオープンで新設されたコミュニティスペースに「街の縁側」が誕生！

当初は買い物に来た方がちょっと一息休んだり、飲食ができるようコーヒーマシンや電子レンジを設置し、椅子とテーブルが設置されていました。しかしリニューアルオープン後間もなく、新型コロナウイルスが流行。椅子は半数に減らされ、コミュニティスペースでの飲食はしばらくできなくなりました。

そんな中でも、組合員から「この場所をもっと活用して欲しい」「地域のための居場所となるカフェをやりたい」など、コミュニティスペースを活用したい声が寄せられ、「誰もが気軽に利用できる、地域の人たちがつながれる居場所」を創出するため本格的に動き出しました。



■地域住民主体での活動を創出するために動き出す

2021～2022年に虹の街佐倉ブロック、福祉・たすけあい事業部が中心となり 地域の課題とニーズを知るためのヒアリング活動と、縁側作りに関わる人、中心となる人を探すためのワークショップを開催。すぐに活動したいという方や中心となる方も見つかりました。



■2022年9月から「みんなの食堂」も始まり、地域に定着

夏ごろには地域組合員のアイデアにより、コミュニティの写真が壁面に飾られたり、店先に花の寄せ植えが飾られ、デポーを華やかに彩っています。9月からは地域のための「みんなの食堂」も定期開催されるようになり、楽しみに来る方がいたり少しずつ定着しつつあります。これからも「地域の方から必要とされる居場所」となるよう、「子どもからお年寄りまで誰もが気軽に利用できる地域の拠点」となることを願っています。



▲木刈みんなの食堂